

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成20年
5月号

毎月23日発行
通巻453号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成20年5月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷株式会社
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★振替口座 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



伊根の舟屋 兵庫県芦屋市 岸添正三さん撮影 (関連記事・6頁)

昭和38(1963)年5月23日 月次祭法話より

大倭の実践とは何か

法主 矢追 日聖 (満51歳)

登美学園の誕生

今月に入りましてお天気なのは三、四日あるなしで、雨が続いております。五月に鏡池の水が堤防すれすれまで溜つた事はあまりないので珍しい年ですね。

おかげさまで今日はお天気に恵まれ、非常に結構であるんです。

今日は大倭の南隣で、県立登美学園の開園式と兼ねて竣工式が行われました。

この児童施設は、貧富を問わず、生まれつき知能の遅れた精神薄弱児を対象にしています。こういう子供達は、どここの家庭でも生まれる可能性があるんです。

子供というものは、親をはじめとして社会のみんな、健康に幸せに育成していかなければならないという義務があります。これは児童福祉法において法でもって定められているんですね。

子供の立場とすれば、自分の両親のそばで、家庭の中で生活する事が一番幸せなんです。しかし、いろんな事情において、子供を保護し育てていく事ができない場合は、やはり施設に入れなければならない。そして、できる事ならば一人前の社会人として社会に送っていく。そういう意味の施設であるんです。

また子供の一生を保障する制度としては、満十八歳の成人になりますと今度は救護施設というものがあります。そういう関係では、光明皇后の精神に基づいて、大倭安宿苑という救護施設が昭和三十一年に、一つ先にできています。

登美学園は、たった五十人の定員ですから、行っている事は小さな事です。しかし、我々の気持ちとすれば、子供の幸せ、ひいては人類みんなの幸せのために、という大きな目的を元に持っております。お互いそうした意味で、非常に高く買っているわけなんです。

登美という名称は、この辺りの事を昔は登美と言っておりますので、その地名から採っております。幸いにして、今日いよいよ開園となり、まことに結構な事なんです。

福祉センターの理想

現在建っております登美学園の土地、千九百坪になりますから六反余りですね。この二千坪近くの土地が、個人の所有地になっておるんです。

この土地は、兼々、社会福祉のため、誰もが幸せになるために利用してもらうならば、児童の施設であろうと養老施設であろうと構わない、無償で提供しようと、私は七、八年も前、安宿苑ができた時から、県の方に言っておたわけなんです。奈良県に精薄児の施設は、お山の奥に一つあります。劍豪柳生さんの菩提寺があるところで、その住職さんが経営しておられる。あれは成美学寮というんですかね。

ところが奈良県とすれば、成美学寮は非常に地理的にも不便であり、児童を社会へ送り出す職業指導もしいけないので、もう一歩前進した施設が欲しいという要望でありました。

その話を児童課の課長からされましたので、無条件でこの土地を提供しようという事で、一昨年

から工事が始まって、本年に入つてでき上がったんです。完成後の建物は県が経営します。

富雄南小学校と富雄中学校の分校が中にありま

すので、それぞれ先生二人ずつが特殊学級としてこの学園に来て、義務教育を受けさせます。

土地そのものを、そうした大勢の人の幸せのために使ってくれるならば、自分としても望むところであり、特に救護施設の南側で隣合わせになりますし、有意義な事として現実化しましたので、非常に喜んでおります。

我々の宗教的立場においても、ゆりかごから墓場までの人間の幸せ、言い換えると人類の福祉という事を考えて、将来においては、助産院からはじまって病院も学校も老後の施設も、とにかく生まれてから死ぬまでの社会福祉に関係するいろいろなものを寄せ集めて、大倭一円のこの辺りに、一大福祉センターを創りたいというのが私の理想なんです。

ものの解釈の仕方

事の成り行きについて、一応みなさんに、ものの解釈の仕方という事をお話したいんです。

一番最初、県の児童課の課長との話し合いの時に、この土地は県のために提供するんじゃないし、県から言われて提供するんじゃない。知事に渡すんじゃないし、県庁に渡すんじゃないんだ。私の心境というものは、社会のあちらこちらにおける精神薄弱の児童、不幸な児童、社会全般の児童の幸福のためにこの土地を提供している。だから、仮に開園式が行われる時でも、県とか知事から感謝状はいりませんと私は言うてあるんです、最初の時から。

ところが、四、五日前に課長が、とにかく土地提供者に感謝状を贈呈しないといけないので知事の決裁を採ってしまった。だから受け取つてもらわないといけない、と言うのですね。

たしかに今日の開園式に土地提供者に感謝状を渡すというのは、形式に一つ華を添える事になるんです。建築をやつた春田組という業者には、感謝状を渡すらしいのですが、業者は一枚もらう事で事業実績の一つに加えられる、後の仕事のプラスになるからまあいいでしょう。

しかし私の場合には、感謝される気持ちはよくわかつておるんだけど、社会全般の人のために自分は提供しているんやから、知事から感謝状なんかもらう筋合いでない。自分が好意でやる仕事に対して、なぜ感謝状をもらう必要があるのか、というのが私の宗教的な感じ方なんです。

それを、こちらの承諾もなく黙って知事の決裁を仰いで、感謝状まで作ってきた。何で自分が呼び出されて出て行って、自分の意志にないような人から、頭下げてもらわなきゃいけないのか。実にこれはもう情けない事なんです。

人によつては一つの飾りになるかもしれないけれども、自分とすればもう全然気持ちにない、好ましくない品物になつてしまふんです。もしこま

で強引に持つてこられても、目の前で焼くでと、私は笑つていたんです。

だから私は、それでは今日の開園式には欠席すると言つて行かなかつたんです。行けばそういう事になりますからね。安宿苑の今井富蔵苑長さんも、わしも大倭の人間やから法主さんが行かないのならと頑張つて行かなかつた。向こうの幹部の方では大分ごたごたしていたらしい。

結局、知事は分かつたという事で、相手は宗教家だから、世間一般の通念で考えていた自分の誤りであつたと理解してくれまして、先ほど児童課の課長と課長補佐、それに園長とで、口だけいいから一つ挨拶とお礼を申し上げたいと言つて見えたんです。これで一応けりがついたんです。

時代に合った考え方

例えば、ある人が大倭教に一万円寄付し、みんなに見て欲しいから一万円の札を書いてくれと言われた時にも、私は今日まで書いた事ないんです。そんな寄付やったらやめてくれと。

結局、我々は物質というよりも精神で生きるんだ。そんな事を言っておれば、今の社会には通用しないかもしれないが、これは自分の宗教的な感覚であるんです。そこに自分の楽しみがあり、そうした行為の中に自分だけは喜びが持てるんですから、非常に幸せなんです。

信仰する動機というものは、自分個人の幸せだと言う人もあります、それは申すに及ばない、自分の幸せは誰だつて考えるんです。また、我が子の幸せも誰だつて考える。

けれどもその時に、我々は社会の中の一員なんです。だから、自分の周囲のみんなが不幸であった場合には、自分だけの幸福はありえないんです。自分たちの本当の幸せというものを考えるならば、この環境をよくして社会全体の人が幸せになつてこそ、自分個人の本当の幸せというものが出てくる。これは今の時代の考え方なんです。

千年前、五百年前の宗教は、ただ自分さえよく悟つて、自分さえよくなればそれで成仏できるといふように説いてきているんです。

自分だけが悟つて山の中で住まいするんだつたら、これもまあよろしいけれども、今の時代になつてくると、すべては団体、団体が動く時代なんです。会社一つにしても何にしても、個人の力ではどないもならない。要するに昔の単位は小さかつたけれども、今の社会の単位は大きくなつてきている。地球を何回でもぐるぐる回れるような時

代で、物事がだんだん大きくなってきているんです。

そこで頭の中も、個人だけが悟つて幸せになつたらいいというような考え方は、もうそろそろ放棄しないとイケない。そうして、みんなの幸せを考えるのが今の時代の考え方だと思ふんです。

例えば会社の場合では、社長であろうと社員であろうと、自分だけがというような事を考えておれば、そういった企業体は崩れていく。

社長という頭があり、専務、またその次があるように、縦の関係において序列を生み出しておるはずなんです。一番下つ端におる社員と社長とが同格であれば会社は潰れてしまうのは決まっています。

そこに縦の関係において、これはもう厳然とした秩序を立て、横の関係においては、社員であろうと社長であろうと平等の気持ちでお互いに一つの仕事に従事していくような、縦と横のバランスがとれていなければ、大きな団体や会社というのは、円滑にはいかななくなつていくわけです。要するに歯車が合わなくなつてくるんですね。

大倭一門の実践

現在、大倭の一門が、神ながらの神意に基づく理念を、ここへ顕し現実化していこうとしております。単なる観念論や机上の空論でなしに、大倭の理念、いわゆる教えの道を実際に行った場合にならぬか、現実にはどういふような形になるか。現実にはその裏づけとして大倭一門の三十二、三人がここで社会の縮図を創つていふんです。

いかに高級で立派な事をしゃべつたところで社会は安定しない。また、人間個人も向上しないと思ふんです。

現在の世の中にも進歩し、一般の子供たちもみな中学校、高校、大学というように、教養も高くなり知識も豊富に持つておる時なんです。裏づけのない口先だけの理論では納得しないんです。我々が口だけで人間の幸福論と言つたつて、これは何にもならない。

それよりも、実際にこうする事自体が本当の幸せな社会であるという、実験を伴う、理論の裏づけになる実態がなければ、今の社会にはものを言えないと私は思ふんです。

そこで大倭の一門は、現在ここに、一つの社会の雛形を創りつつあるんです。まだ完全にはできておりません。まだその途中ではございますけれども、もうぼちぼち芽が出てきて、これは何であるかなと、豆の花か、えんどう豆かと、ちよつと区別がついてきたんです。つまり世間の団体と大倭の共同生活体とを比較してみた場合に、ぼちぼち色彩が出てきたと思ふんです。

加美さまの教え、真理というものの、哲理というもの、大きくいけば世界や国家に、小さくいけば個人の家庭に、もう一つ小さく言えば我が自身に、大きくなり小さくなり、自由自在に誰にでもあてはまるところのものでなければならぬんです。こちらにはあてはまるけれども、こちらにはあてはまらないというような事では、真理、加美とは言えないんです。

ここに三十何人のいろんな色彩の人間が寄り集まって、年齢とか、あるいは知能や体力等、全て相違する者ばかりが集まって、大倭一門を創り上げています。この姿を社会の人が見た時に、大倭の教えはああいうような結果になるんだなというものを創つていふんです。だから、これは社会改革、あるいは社会改造の大問題であると言つていいんです。

ただ口先だけの宗教で、うちの神さんはどうだこうだと百万陀羅言うて歩いたところが、そんな事と現実の我々の社会生活とどんな関係があるのか。そんな事を口にして、手を合わせて拝むという事がどれだけ社会全体の福祉に関係があるのか。良心的に考えた場合に、みな上すべりのような感じがするんです。

大倭主義と實際生活の検討

二十三日の月次祭の前夜は俗に言う宵宮です。毎月二十二日の夜は、大倭の者たちが一堂に集まりまして、教修会を開きます。

昨夜は、大倭主義という問題を取り上げて、哲學的な理論が我々の生活において、実際にはどういふところに動いておるんか、どのように具体的に現われておるのかという事を、八時から夜中の一時までお互いに検討を重ねたんですね。

出席しているのは大人と中学生以上の子供で、全員で二十二名です。小学校、幼稚園、また年寄りには参加していません。

居眠りする者もおらんで、それでもまだ議論が足りなかったんですが、子どもは学校に行きますので、一時で切り上げたような実情なんです。

大倭のこの大本宮におる者たちは、そういった問題に対して真剣に検討し合っています。という事は、次の社会の推進力、次の社会改革の力にならなきゃいけないという自覚を持っておるんです。大倭を信仰される方々もみんな一人一人が、そういうような空気を持つという事は、社会に対して大きな力にもなり、また自分個人の家庭の中において、非常に幸せになれるはずだと思いません。そういう内容については、いつかまたパンフレットにまとめまして発表するつもりでおります。

金鶏はばたく時

ただ単に手を合わせて神さんに拝み、その神さんからご利益をいただいて、自分は結構でございます、信仰しているから幸せだということであれば、昔の人が言うたように、宗教は阿片だ。

この際、阿片中毒で酔っておるような信仰は、一切打破しなきゃいけない。現実に地に足をつけた宗教でなければ社会全体の人たちが幸せにはならない。今我々は大倭と理論の両面から大倭の宗教を伸ばしていかねばならない段階にきておるんです。

瑞光院もほぼ出来上がっております。今年の夏頃までには私も移れるかと思っております。そうなれば、私はもう宗教一本でこの道に精進していきます。宗教法人大倭教という組織的な行動はもう次の代の者に譲りまして、私は教えの道という事に重点を置いていきます。私の子供が運営して、大倭として対社会的に動いていってくれるような方向にもつていきたいと思っております。

今まで大倭は基礎工事の仕事でしたけれども、これからは対外的に金鶏はばたいていくというつもりで、そういう生き方に切り替えていこうと私は覚悟しておるんです。

そういう時期ですから、毎月こうした教修会を開いて、まず大倭というもの、大倭主義というものはどうか、大倭の宗教はどうであるかという事を検討し、大倭の人間一人一人の血液の中に、大倭の思想、大倭の信仰、大倭の真理というものを叩き込まなければ、対外的には本当の大倭の生き方というものを広めていくだけの力がないと思っております。

こちららもみんな訓練しておりますから、どうか

信人の方々においても、今から心の準備をしていただきたいと思えます。

今後の大倭に大いに期待を掛けると同時に、自分たちもみな大倭の一員であるというつもりで馳せ参じて、宗教的な社会教化運動に参加していくという決意を固めて欲しいと思えます。

(文責 編集部)

くだまことだま

08・2・29

矢部 顕様 大倭印刷(株) 中島 健

大倭印刷創業当時の活版機は溶鉱炉行き、GTO機は中国に行くことになりました。創業の基盤づくりには貴兄には指揮官として苦勞をかけたことを、当時を知る青山法義 吉澤満 中村千久佐 反保利通等と改めて話し合いました。

中島 健様 矢部 顕

いづれも、初めて印刷を覚えた機械ですので、機械の鉄とか鋳物の感触やら、レバーの操作感覚を思い起こします。健さんに指導してもらったから、素人の小生にもできたことです。今にして思えば、冷や汗ものです。

まったく偶然なのですが、10年前に、アメリカ、イリノイ州でお世話になった方が、印刷屋を経営していて、おなじGTOが工場にあったことを思い出します。ステイブさんという人で、いまでも時々メールでやりとりしています。

長く使うと、機械にも愛着が生まれます。ごくろうさま、と言いたいですね。

わたしの腕時計は、なかなか壊れなくて、42年使っています。学生るときに買ったもので、高級品でもないのですが、あのころ日本は、一生懸命いいモノを作ろうとしていた時代でした。時計、カメラ、自動車、いろいろ。いまは、早く壊れて、買い換えて欲しい、という下心がみえますね。

後南朝

こもれる魂魄の地を訪ねて 第32回

兼田 隆

1392年、南北朝（南朝—吉野 北朝—京都）が統一された後にあつても、なお吉野の山中に潜んだ南朝勢力を後南朝といいます。

1443年、後南朝方はもつとも過激な行動をおこします。尊義親王（金蔵王 空因王）達を奉じて京都の宮中に押し入り、天皇の証である三種の神器の一つ「神璽」を奪い取り、遠く吉野の地に運び去ります。この事件を禁闕の変といいます。

三種の神器とは古来より宮中に伝わるもので、鏡（八咫鏡 神鏡） 剣（天叢雲剣 神劍） 玉（八咫瓊勾玉 神璽）を継承して皇位の証となるものです。今上天皇も継承の儀を行ってから皇位についておられます。

禁闕の変後、後南朝の皇子達が「神璽」と共に隠れ住んだという行宮跡が吉野郡川上村にあります。三之公行宮跡、通称「隠し平」とは尊義親王とその皇子である自天王（北山宮 尊秀王）と忠義王（河野宮）が住んでおられたので、この地に三之公の名がつけられたとの事です。

登山口より40分程で落差40mもの明神滝に着きます。マイナスイオンを浴びて休息するのに最適な場所です。明神滝を出発して1時間程



で「三之公」に到着しますが、途中一番神経をさせたのが山蛭の存在でした。山蛭は人や動物の動きを探知（二酸化炭素らしい）して地面などから進入する吸血鬼です。三之公をめざされるなら、山蛭対策は万全にして訪れて下さい。

「三之公行宮跡」を、さらに200mほど奥に行くと二皇子の父である「尊義親王御墓」（写真①）に着きます。川上村井光神社には供養塔があります。

三之公（天川という説もある）で鯖寿司を頂いた親王が、家臣にも分け与えようとしたが器が見あたりません。しかたなく目についた山柿の葉に包んで渡したのが、柿の葉寿司の始まりだという逸話が今に伝わります。

尊義親王は45歳で病死します。残された二皇子はやがて三之公から、それぞれの行宮に移ります。そこには悲劇が待っていました。

1457年、「神璽」奪還をもくろむ北朝方は、

お家再興を餌にして赤松氏の浪人達を使い、自天王（18歳）と忠義王（16歳）の二皇子を殺害し首と「神璽」を奪い取り、京都を目指しますが、かけつけた南朝方の川上郷土が奪い返します。この事件を長祿の変といいます。

川上村北塩谷の国道169号線沿いに、この事件の「後南朝最後の古戦場」と自天王の首を載せた「御首載石跡」碑があります（写真②）。自天王の墓は、上北山村小椋滝川寺（写真③）と川上村神ノ川の金剛寺（写真④）、忠義王の墓も同じく金剛寺にあります（写真⑤）。

後南朝は事件後、衰退の一途をたどり歴史の舞台より消え去ります。

後南朝がもう一度話題になるのが、1945年の敗戦の年の事、熊沢寛道という後南朝正統を名乗る人物が、突如現れます。日本を占領している連合軍総司令マッカーサーに自分を昭和天皇の代わり皇位につけるようにと訴えます。当時マスコミにも取り上げられ、民衆から「熊沢天皇」と呼ばれ、一躍有名になります。結局、皇位には就けず、再び表舞台より消え去ります。現在その子孫の方が奈良にも住んでおられるとの事です。

「逍遙遊を求めて……」 「血縁と地縁」の巻

京都府宮津市 藤本宏秋

編集部から一枚の写真が送られてきた。それは幼い頃から見慣れた景色、京都府北部の丹後半島にある伊根の舟屋のものだった。

伊根は母（旧姓 鈴木）の親元で、その家に向かう道中に舟屋の集落がある。そして、そこには伯父（平成十九年四月三日帰幽）が住んでいた。

今から三十年ぐらい前のことだが、小学生の頃、夏休みになると必ず舞鶴から祖父母の家へ行き長期間滞在。もう時効だと思いが、父の運転する軽トラックの助手席に兄と二人で乗って、行ったこともあった。その時は決まって私が足元に隠れる役目だった。虫取りに夢中になったり、軒下に入るしてあった玉ねぎを取る猿を追いかけたり、海水浴の後、セミの大合唱を聞きながら昼寝したり、時には駄々をこねて土蔵に閉じ込められたこともあった。——子どもの駄々つ子ぶりを見ると、そのことが思い出される——いつも兄と一緒に遊び、のどかでとても幸せな日々だった。

その暮らしは、中学生の頃、母と兄の立て続けの入退院からガタガタと崩れ始めた。私はその問題から目を逸らすように、クラブ活動に熱中した。今、手元に叔父が編纂した「わがふるさと」には「消えず」という鈴木家の家史がある。そこには地理的条件や時代背景、家系譜とともに、村では異端であった法華宗を信仰していた先祖の受難や、祖父 正弘が千願寺参りしたことなどが事細かに書かれてある。

昭和五年暮れ、祖父は二十四歳の時、酷寒の木

こり以来、床を離れることができなくなり、療養生活になった。希望のない暗澹たる毎日が続き、各種の読み物、特に宗教書を読み漁った。

昭和十一年二月、将来への見通しのつかない自分に、祖父は決断を迫る。「例え行き倒れになってもいい、千願寺の旅に出よう。そして千の寺を詣る事ができたら、身延山へも参つて来よう」と。これには、身延山の全景と御祖師様のお姿を夢に拝んだことが影響しているらしい。

そして昭和十一年四月三日、祖父は白装束に身を固め、背中には身の回り品（御朱印帳、日記、衣類など）を入れるゴイビツを背負い、手には団扇太鼓を持ち、死を賭けた千願寺参りに出発したのだ。見送る者の中には、最後の姿だと思つたのか、激しく泣きじゃくる人もいたという。

道中は、太鼓をたたき、お題目を唱えながら歩き、夜は寺や民家に泊めてもらったようだ。大阪や名古屋市内の法華寺には全て参り、必ず御朱印帳にお題目（南無妙法蓮華經）や印をもらった。その記録は祖父から見せてもらったことがある。そして昭和十一年五月二十九日、祖父は日蓮宗総本山、身延山にたどり着いた（写真）。滞在中に「お前の病気はもう全快している。早く国へ帰つて両親に孝養を」と諭された。

その旅から帰つてから、不思議と寝込むこともなくなり、農業をし、健康に自信がついた祖父は翌年結婚。十人の子どもに恵まれた。

祖父の足跡の一部分を振り返るだけでも、今に



繋がる生命の不思議な流れを感じている。ところで、平成七年一月、母と兄を連れて大倭神宮のお祭りに参列したことがある。

その日の舞鶴は、前日からの大雪で真っ白だった。朝、エンジンをかけておこうと車に向かっていると、すぐ近くでメキメキツという音。その方向を見ると、信じられないことに、大木が雪の重みで倒れて来るところだった。運良く私と車は大丈夫だったが、国道へ繋がるただひとつの一本道は遮られてしまった。母はしきりに「行きたくない行きたくない」と繰り返していた。

近所の皆さんが出てきて、雪の降る中、のこざりて運べる大きさに切つて道は開通した。「今日は行かない方がいいのか？」という一瞬の迷いを打ち消し、予定より大幅に遅れて奈良へ向かった。社務所の中で、母は法主さんに背中をさすつてもらっていた。そして「ええお母さんやないか」と法主さんは私に向かって言われた。

今も母や兄は入退院を繰り返している。私は自分のことで精一杯になり、なかなか面会にも行けない。自分自身を治めることも出来ず、相変わらず逍遙遊の心境とは程遠いところにいます。

「親子、兄弟、夫婦は一体のものではあるが、この人間関係は絶対的なものではなく、それぞれの命に^{みこと}応じた仮の姿である」という法主さんの言葉が去来する今日この頃です。

今回でこのコーナーでの私の番は最終回です。つたない文章を読んでいただき、ありがとうございます。今後とも宜しく願います。

（表紙写真解説）一階が船のガレージで二階が居間となった伝統的な漁師の家屋は伊根湾の海辺ぎりぎりに建ち並んでいる。もう十五年前になるが、NHK連続ドラマ小説「ええによぼ」の舞台になったことで記憶されている方も多いと思う。

寸 莎

第79回

杉 浩 史さん

理想と現実のはねまじり

「俺も実際に霊的体験も経験させられたけど、それについては別の機会にゆずって、俺にとつて大倭は世直しの一環やったんや」。からからと笑いながら早口で語る杉さん。中学生の時には早くも反戦平和に強い関心を持ち、高校一年でテレビドラマ『私は貝になりたい』を観てからそれは決定的なものになった。夢は国際司法裁判所に勤めて世界平和のために尽くすことか、新聞記者になること。後に同志社大学に入学、世の中を善導するには新聞社だと思いい、新聞学を専攻した。

時代は一九六一年。前年には安保闘争の最中、樺美智子さんが亡くなる事件が起きていた。杉さんは学生運動を止めないので家からは勘当状態。しかし学費だけは払ってもらっていた。当時六畳一間の下宿で月二



五〇〇円。夜間高校の自転車整理のアルバイトをしたが数ヶ月でやめ、食べていくのに水商売に入った。「長襦袢サロン」歌磨、ナイトクラブ「おそめ」ではタキシードに蝶ネクタイのボーイだった。これで本や好きなレコードも買えるようになった。全国に先駆けて活発に活動していた京都府学生自治会連合の一員だった杉さんは、後に赤軍を作った同級の塩見孝也と共に、壊滅状態だった東京の学生運動をオルグしに出かけたこともある。「日本の夜明けは京都から、日本革命を起こそう」と大真面目のおバカさんやったんや」大倭には大学二年の秋、FIWCのキャンプで来て（おおやまと423号参照）法主さんに出会っていたが全く宗教には関心がなかった。それから一年後、ふと学生運動に疑問がわき始める。「自分たちのや

ことやというのはおかしいんやないか」。契機は、「鶴見俊輔、寺山修司、谷川雁、吉本隆明に散々おちよくられて、最初は腹立たしく思ってたけど、足元から思想の自立について見直そう」そう思うようになっていた。そんな頃、柴地則之さんが「あの男（法主）は随分面白いと思うんや、戦前の活動をみると右翼かとも思えるけど違うな、アジア主義者かも知れん」。そして柴地さんが、山岸会の話を持ってきたのと連動して、法主さんの話しが心に入ってくるようになる。「本当の世直しはこれかも知れん。俺達があげばまくっても社会に何の影響力もない。世の中を変えるのは人の心が変わらなあかん」'64（S39）年、大倭一門に入る。共に一門となった柴地、杉本順一、杉の三人は樺美智子さんに敬意を示して、六月十五日を入門の日と定め、瑞光庵から大学に通った。

ことを届けたんや」。職する。しかし65年の秋、家の事情もあり大倭を出る。ブント（共産主義者同盟）の活動に手を染めたメンバー達と共に、関西大学生生活協同組合を始めて生協の仕事に約十年間従事。二十七歳、千里山生協の業務部長をしていた頃、幼なじみで六歳下の明子さんと結婚。聖基さん、円香さんの二児に恵まれた。その後、ウインチ等を作る会社で、東洋機工、米子鉄工所大阪出張所等に約二十年従事。苦勞も多かったが何とか信用一本で乗り切った。四十歳、金属の機械加工業（株）ヨナゴ精機工業一を起業。十年間は順調だった。しかし、一九九一年パブルがはじけたのを機に状態は厳しくなる。二〇〇二年六月倒産、自己破産を決断する。「他のどの出来事よりも重きをなす決断であり、転機であった」。丁度六十歳の時だった。時間に追われ死に物狂いで働いてきて、自分のやりたいことは何なのかと考え始めた頃、親友の奥方が急死。文章を書き綴るようになる。大倭とも疎遠になりかけていたある日、久しぶりに月次祭に参加した。すると鈴月母さんが「コウちゃんや」といつて杉さんを抱きしめ「ここにおろうがおるまいが、コウちゃんは何%大倭の子なんやで」そういつて下さった。「法主さん鈴月かあさんは、心の親父、心の母親や」現在マンシヨンの管理人をする傍ら、ひきこもり支援のNPOで監事役をしている。「何にもようせんくせに社会との接点がないとあかんねんな」とまた笑った。（聞き手＝李章根）

AWTCC日誌

4月13日 祝会。

紫陽花邑の山崎正知さんの母、山崎房さん（熊本県 九十二歳）が帰幽されました。

4月15日 大倭神宮において箭負祭が行われました。

4月18日 甲野善紀さんが広島に行かれる途中の日程をやりくりして4月4日に続き「介護における体の使い方」を指導のため来邑して下さいました。夜、大倭会館にて。参加者の中には体の使い方をスポーツの参考にしたと元Jリーガーの柳本啓成さんと矢部次郎さんの顔もありました。



4月19日 夜、交流の家でFIWC定例委員会。中国キャンブのメンバーによる手作り餃子パーティーもあり盛況でした。来邑中の矢部顕さんも参加。

4月20日 第297回大倭会文化行事に参加者15（内子供2）人。今城塚古墳と協和園で野菜の水気耕栽培の見学。その後、近くの闘鶏神社へ回りました。（詳細は6月号で報告）。

4月22日 奈良市柳生町の近藤直子さんが家族で来邑。

4月23日 大倭大宮月次祭。

この日は昭和38年4月23日の法話テープをお聞きしました。（前月号掲載「自然現象と霊界、そして私達の心」）

4月25日 大阪市の佐々木康哲さん、藤原直子さんが来邑。

4月26日 新奈良ゴルフ倶楽部で、第10回大倭会ゴルフコンペ。終了後、懇親会。

4月29日 昇ちゃん（青山法義 元子 美子）一家と映画「小林少女」を鑑賞。また5月5日には平群の山上憲一さんの

第299回 大倭会文化行事 司馬遼太郎 記念館

「街道をゆく」展 開催中
関西が生んだ不羈の小説家の
自宅と記念館

日時 平成20年6月22日(日)
12時30分集合

場所 近鉄奈良線 八戸ノ里駅改札出口

交通 近鉄学園前12時13分発急行に乗り石切で普通に乗換え、八戸ノ里12時29分着。

注意：雨天決行 昼食を済ませて集合

午前中：希望者 元グリコのおもちゃデザイン宮本順三記念館へ。

八戸ノ里10時45分集合、改札からすぐ。

この場合、学園前9時59分発普通で。

司馬遼太郎も来たお店で軽食、駅で合流。

問合せ 湯浅芳郎 090-6987-5847(携帯)

畑で芋植え。FIWCの女性キヤンパーが居て俄然満足のゴールデンウィークでした。

4月30日 紫陽花邑の鏡池堤防にある排水溝が整備され、大雨も少し安心です。

5月6日 大倭神宮月次祭。横浜の高杉一空さんが10年ぶりに参加。東京都町田市の得田典子さんと娘さんも久しぶりの参加でした（一泊）。

夜、大倭会館で邑倭の会。

大倭安宿死では

5月9日・12日 新規採用10名に対する「新入職員研修会」。

（菅原園）

4月26日 春の家族交流会。ポランティアグループによる歌と和太鼓の演奏、屋台形式の昼食を楽しみました。

（須加宮寮）

4月20日 奈良県障害者スポー

ツ大会卓球競技会に3名の住苑者が参加、メダルを1つ獲得しました。

（長曾根寮）

4月21日（デイサービス） 腹話術人形が牛乳を飲むところを見て大変驚かれた様でした。

4月24日 美容教室。

5月1日 アロマハンドマッサージ。

（八重垣園）

5月4日 ゴールデンウィーク中に入居者の作品展示会開催。

投句箱より 「友悼む目には眩しき若葉光」どうせかなわぬ恋だけど忘れられない人となり」

俳句の風物 上田森彦（98歳）

手の薔薇に蜂来れば我が王の如し 中村草田男

風景や花 小鳥を写生する様に言葉にする場合や、この句のように所作に心の動きを乗せて詠う場合がある。

森彦 4月14日 4月15日 4月16日 4月17日 4月18日 4月19日 4月20日 4月21日 4月22日 4月23日 4月24日 4月25日 4月26日 4月27日 4月28日 4月29日 4月30日

田植えのご案内

今年も田植えの季節となりました。無農薬、EM農法で米づくりをして11年目です。どうぞふるってご参加下さい。

6月7日(土)

午前9:00～(雨天決行)

- *泥で汚れてもいい服装で。(着替え、タオル各自で準備) 軍手・軍足は用意します。
- *昼食・飲み物は用意します。(持込み歓迎)

連絡先：玄徳院

TEL 0742-41-4615

ATMIC

* 月次祭(大倭神宮)

6月6日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

* 大倭会主催第四七四回祝会

6月8日(日) 午後2時より大倭大宮拝殿にて。

禊(みそぎ)とは、自己本霊を覆っている枉罪を祓い加美のお徳を戴くこと。「つみそぎ」と「みいずそそぎ」という言葉が一体となつてきた大和言葉。

禊には、知恵の研鑽によつて表面から枉罪を除く方法と本心、本霊の働きによつて内側から除く方法とがある。

* 月次祭(大倭神宮)

6月15日(日) 午後2時より大倭神宮にて。

* 月次祭(大本宮)

6月23日(月) 午後2時より大倭大宮拝殿にて。